

# カバンサグ氏の生姜<sup>しょうが</sup>

上田 千秋



C・P・カバンサグ氏は、フィリピン、

ミンダナオ島最大の都市、ダバオに住む事業家である。六三歳の彼は、この国の化学技術者協会の副会長であり、観光会社を含め幾つかの企業の経営者でもあるが、みずから「ヒヤクショウ」を口ぐせにする彼の主たる財源は、ダバオ南州に四〇〇ヘクタールを占めるココやし農園にあるといえる。

彼の自慢は、カバンサグ家が、ルソン島北部の貧農であったこと、イロカノ族の一員として我武者羅に働き続けたこと、労働の成果が今日の繁栄をもたらしたこと、家柄と学歴重視の身分制社会のなかで、あらゆる圧力に対抗し続けてきたことなどである。たった七ヘクタールだという、広大な屋敷に招かれて、四〇〇羽の鳩にとりかこまれて、彼の自慢話を聞くのが、最近の私の夏の行事の一つにな

つてきている。

この夏も、五日間、ダバオの自然を楽しんで来た。十二回目の訪問を彼は暖かく迎えてくれ、なか一日を除いては殆んどつきつきりで歓待してくれた。

一日だけ顔をみせられなかったことについて、彼は恐縮しながら、次のように説明してくれたのである。

× × × × ×

ココやしは、十メートル間隔で植えられている。やしの葉陰の肥沃な空間地に今までは胡椒を栽培していたが、二年前に日本の青年海外協力隊（彼はジャパニーズ・ピース・コーといっている）のタナカサンが、生姜を植えてみたらと、栽培技術を指導してくれた。試みに昨年は十ヘクタールばかり植えたら、手間がかからず大量の収穫があった。やしの実の乾燥場の隣に積み上げておいたら、それ

こそ蜜に寄る蟻のように、日本人バイヤーが入れ替りやって来て、自分達で値段をつり上げて買っていつてくれた。

自分は生姜でもうけようとは思わなかったが、農園には三〇〇人以上の子供達があり、子供達の教育費や労働者の生活費のたしになればと考えて、今年もまた十ヘクタールの植え付けを終って、あとは、雨の降るのを待つばかりの状態なのだが、もう東京から、誰かの紹介状を持って、しかも顧問弁護士を連れて、立派な紳士が生姜を買い付けにやってきた。

そんなわけで、昨日は、このバイヤーの応対に時間をとられて、折角の大事なお客さんの接待ができなくて申し訳なかつたと釈明するのである。

× × × × ×

さらに彼の説明が続く。十一時二〇分、空港出迎え、十二時、ホテルに案内、昼食抜きで、「ビジネス・ファースト」といって、荷物は部屋にほうりこんだまま、ノートと辞引きを片手に、生姜の取引きをせきたてる。

すぐに契約書を取りかわそう、そのために弁護士を連れて来た、カネはサキガネで渡すと生姜の現物を見ずに一方的にまくしたてる。『生姜は先日植えたばかり、これからの天気次第で、どれぐらい収穫できるか解らない。収穫したらテックスするから、その時に買いにいらつしやい。サキガネ主義は私のような農園主とはならないし、お天気によってどちらかが不利になりかねない契約書はこちらでは通用しない。どちらも損をしないような取り引きでなくては永續きしない。お国の安宅産業はこの原則を忘れたから失敗したのだ。折角いらつしやったのだから、しばらく見物してからお帰り下さい』といったのだが、肝心の英語が通じないバイヤーだから、時間の浪費に終ってしまった。「ジャスト・モーメント」といつて辞引の頁をめくつてばかりの弁護士では仕事の邪魔になるだけだ。午後六時までもたましていたら、「今日のビジネスはこれで終り、これからナイト・クラブに案内してくれ。費用は会

社持ちだ」という。シャクにさわったが、二カ所案内して十時にはホテルに送りかえしたが、彼らに生姜を売らない決心をしたし、手紙で済む話をわざわざ東京から、役に立たぬおともを連れてやって来て、一流ホテルに泊り、ナイト・クラブで豪遊し、費用を一切会社につける例は、なにも今回が初めてのケースではない。だから日本では生姜は、このダバオの一〇〇倍もするのだらうし、こんな取引きをしていたのでは、日本の将来は安泰とはいえない。だが当の日本人バイヤーのためを考えれば、「インスタント・ラーメン、そしてすぐカケアシ」の東京の生活を離れてダバオに来たのだから、のんびりさせてやりたい気もする。……とカバンサグ氏は語る。

× × × × ×

私は日比貿易の内状を知らないし、日本国内で消費される生姜が、主にどこから輸入されるかも知らない。だが、マニラの友人の話では、フィリピン産の生姜は、香港産、又は台湾産のレッテルで日

本に入ることになるという。そして、このカラクリの中で、商社会社がモウケるのだという。福田総理の東南アジア訪問期間中、私は村上尚三郎氏とフィリピンに滞在していた。連日の新聞は、日本商社の悪口と、福田ドクトリンの批判でにぎわっていた。人口一人当りの国民総生産又は国民所得の高い国の人に対しては日本人は敬意を払うが、日本よりも遥かに低い国の人々を軽べつしている」とアセアン加盟国の住民は一樣に考えている。東南アジアの人達は決して心から、日本の指導的役割りを期待してはいないのだ。各国の民族主義の高まりを、私たちはもつと正しく受けとめる必要があるといえよう。

× × × × ×

カバンサグ氏の生姜は、ココやしの葉陰に、もれる南国の太陽と、雨と、温度にはぐくまれて、緑の葉を茂らせている。ダバオ南州のこの生姜は、今年はこの国の産物として日本に運ばれてくるのであろうか。(うえだ ちあき 社会学部教授)